「日本とボスニア・ヘルツェゴビナ（BH）の20年間」

日本とBHは今年で外交関係樹立20周年を迎えます。この機会に20年間の日本とBHの関係を振り返ってみたいと思います。日本は過去20年間、BHの復興支援を切れ目なく行ってきました。日本の支援は政治的な動機を絡めず、国民の融和を願って、支援が直接国民に届くよう、BH連邦、RS共に均等に支援を行っています。その典型例は草の根無償援助ですが、現在までに保健、学校、水供給、地雷除去など200件あまりの案件を支援して、BH国民から感謝されています。公共バスについては、サラエボ、バニャルカ及びモスタルに計155台の公共用路線バスが供与されました。サラエボフィルハーモニーには楽器が供与されました。病院支援では、サラエボのみならず、全国の病院にX線や救急車などが供与されました。全国72校の小学校の教育環境が改善しました。一昨年の洪水被害に対して総額約26百万KMの支援を行いました。そして、累計で総額約10億KMの援助をBH全土で実施してきました。日本は二国間支援ではEU、米国に次いで、北欧諸国やスイスと並ぶ主要ドナー国ですが、引き続きBHへの支援を積極的に行っていく方針です。

BHが本年EU加盟候補国に正式申請したことを日本は歓迎しています。日本は域外国ではありますが、BHのEU加盟プロセス及びNATO加盟を支持しており、同プロセス推進のための後押しをしていく所存です。また、日本はPIC・SBメンバーでもあることから、政治的安定と発展に貢献しております。

日本大使館は2008年にサラエボのBistrikに大使館を設置して以来、経済協力活動、広報文化活動を積極的に展開していますが、この20周年の機会に、これまでのBHへの経済協力支援だけではなく、BHの潜在的経済発展を見越して、日本企業からの投資拡大、進出機会の拡大に努めていきます。BHは自動車関連産業、エネルギー、観光、農業等の分野で高い潜在力があると考えています。しかし戦後20年が経ちますが、日本の企業の中には、未だにBHに対するネガティブなイメージも持つところも少なくないので、こうしたステレオタイプを払拭すべく、本年10月には日本のJETROと地元のFTC、FIPAと協力して、日本からビジネス視察ミッションを初めて当国に派遣する予定です。これが実現すれば、BHへの理解が深まり、日本からの経済進出・投資が拡大することが期待されます。

今年はサッカーを通じた民族融和のプロジェクトとして、モスタルのスポーツクラブ「カンタレバツ」の改修計画が進行しています。これは元サッカー日本代表キャプテンである宮本元主将による発案で生まれたプロジェクトであり、サッカーを通

じて異なる民族出身の子ども達が友情を育む機会を提供するものです。BH ではサッカーは国民的スポーツといえますが、日本とBH を結ぶサッカーの縁は深いものがあります。過去にはBH の国民的英雄であるイビチャ・オシム氏が日本代表の監督に就任し、現在ではハリルホジッチ氏が監督に就任しています。日本ではこうした背景から、サッカーを通じてBH を知った人も多く、日本のサッカーはBHのおかげで成長できたといっても過言ではないかもしれません。そうした中、本年6月にはキリンカップ杯で日本とBH が親善試合を行うことが決まっており、この機会に多くのBH 市民が日本を訪問していただけることを期待しております。

日本とBH の二国間関係はきわめて良好です。今年はハイレベルの要人往来も検討しております。さらに国家レベルにとどまらず、地方自治体レベルでの交流も進展しており、サラエボ市と広島市との協力連携が進んでいることを喜ばしく思っております。

今年は文化イベントも目白押しです。すでに4月には日本の伝統音楽、三味線公演がサラエボ、バニャルカで開催され、盛況に終わりました。続いて今月はナショナル・ギャラリーで現代日本建築展「Parallel Nippon」が開催されています。6月には日本の伝統音楽 B-Come の公演、さらに今秋は、太鼓公演や琉球舞踊公演等が予定されております。是非BH の市民の皆様にも足を運んでいただき、日本文化に対する理解を深めてもらえればと思います。サラエボ大学では日本語公開講座が開設されて3年目を迎えますが、年々、日本語学習者も増え、日本語を話すボスニア人が増えていることを喜ばしく思っています。昨年12月には日本語能力試験も初めて行われました。このように日本とBH の交流の拡大には期待が高まるばかりであり、駐BH 日本大使としての役割の重要性に大きな使命感を感じているところです。

最後に、私が赴任して1年が経ちますが、日々の仕事で感じた率直な感想を述べさせていただきます。BH には美しい自然や地理的優位性など様々な経済的ポテンシャルがあるにもかかわらず、それが十分に活用されていないとの印象を受けます。個別には、BH では周辺国と比較してインフラ整備が圧倒的に遅れている印象です。公的機関をスリム化し、余った予算のインフラへの投資を慫慂したく思います。外国企業の投資を呼び込むには、道路等のインフラ整備がきわめて重要な要素となります。更にメリットシステムの導入が大事です。私企業のみではなく、公企業を含め公的分野にもメリットシステムを取り入れ、エンパワーメントや透明性を確保し、優秀な若者が公平性を感じながらこの国を支えていく体制を早急に作る必要があります。若者が将来に希望をもてるような社会に変えていくべきでしょう。今やグローバリズムの世の中で、好むと好まざるとに拘わらず、BH も世界との競争にさらさ

れています。しかし BH が、これだけのポテンシャルを持ちながら、引き続き欧州の遅れた国に留まっているのを見るのは悲しいことです。BH が民族間や政党間の政争に時間を費やしている余裕はありません。より良い、より幸福な BH を目指して政治家を含めた国民が力を合わせることを切に願っています。

2016年5月 駐 BH 日本大使 小川和也